

令和 7 年 度

排 水 ポ ン プ 車 操 作 業 務
仕 様 書

舞 鶴 市 土 木 課

第1条 （一般事項）

1. 本仕様書は舞鶴市所有の排水ポンプ車及び舞鶴市が国土交通省福知山河川国道事務所から貸与を受ける排水ポンプ車の操作業務(以下、「本業務」と言う)に適用する。
2. 主任技術者の選任等
主任技術者は、業務の履行に関して発注者の定めた調査職員等の指示等を受ける任にあたりとともに、受注者の業務の履行に関し業務従事者に対して業務の指示及び指導監督を行うものとする。
3. 現場責任者の選定等
受注者は、現場での履行時に発注者の定めた調査職員等の指示を速やかに実施するため、必要がある場合は主任技術者の代務者として現場責任者を定めることができる。ただし、事前に書面により調査職員等に通知するものとする。

第2条 （業務の概要）

本業務は、宅地・道路等における浸水被害の防止・軽減を図ることが目的であり、契約期間内に発生する可能性のある浸水に対応すべく調査職員等の指示により出動態勢を整え、排水ポンプ車を調査職員等の指示の下、浸水現場等へ出動し排水作業を実施するものである。

また、排水ポンプ車は常時稼働可能な状態に機能を確保する必要があることから、これを維持するために点検業務を行うものとする。

履行場所：舞鶴市 市内一円

履行期間：契約日の翌日から令和8年3月31日まで

（なお作業期間は、契約日の翌日から令和8年3月15日まで）

1. 点検業務

点検業務は、排水ポンプ車の出動要請があった時に稼働できるよう操作点検（訓練作業含む）及び日常点検を行い、稼働可能な機能維持を図るものである。

2. 排水操作業務

排水操作業務は、調査職員等から指示があった場合に、排水ポンプの操作、排水ポンプ車の回送、連絡車の運転、排水ポンプ車等の清掃、出動待機を実施し、操作完了後は再出動が可能な状態にするための整備を行うものである。

第3条 （業務の範囲）

1. 対象機械

本業務の対象機械は、次表に示す機械とする。

排水ポンプ車①

建設機械名	車両番号	積載設備・機器	車両総重量	車両保管場所
排水ポンプ車① （舞鶴市所有）	京都 800 そ 604	発電機 125kVA バルーン式投光器 1000W×1 手動式上下伸縮装置 水中モータ駆動ポンプ φ200×4 台 ホース類	8 0 0 0 k g 未満	舞鶴市土木課管理センター （舞鶴市字市場 726 番地 1）

排水ポンプ車②

建設機械名	車両番号	積載設備・機器	車両総重量	車両保管場所
排水ポンプ車② （国交省所有）	京都 800 は 1380 （予定）	発電機 125kVA バルーン式投光器 1000W×1 マルチゲート 水中モータ駆動ポンプ φ200×6 台 ホース類	9 9 1 0 k g	舞鶴市字志高地内 （岡田下消防団消防車庫前空地予定）

排水ポンプ車③

建設機械名	車両番号	積載設備・機器	車両総重量	車両保管場所
排水ポンプ車③ （国交省所有）	京都 800 は 1381 （予定）	発電機 125kVA バルーン式投光器 1000W×1 マルチゲート 水中モータ駆動ポンプ φ200×6 台 ホース類	9 9 1 0 k g	舞鶴市字志高地内 （岡田下消防団消防車庫前空地予定）

2. 点検業務

点検業務は、排水ポンプ車（舞鶴市所有）の機能維持を目的として、各装置の作動確認、異常発見及び操作の習熟を目的に実施するものとする。
各機械の点検項目等は各点検記録表によることとし、不具合を発見した場合は、不具合記録表「点検記録表 - 5」に記載して提出すること。

1) 操作点検（訓練作業含む）

操作点検は、7月と11月の2回／年で1回当たり4時間程度を予定している。

作業内容は、車両の運行前点検（日常点検）「点検記録表－2」と、排水ポンプの動作確認として排水運転（負荷運転）「点検記録表－3、点検記録表－4」を実施する。また、走行点検として排水ポンプ車を作業実施予定箇所まで運行し「点検記録表－1」を提出する。

訓練作業は、操作点検を兼ねるものとする。

2) 日常点検

日常点検は、1回／月で1回当たり2時間程度を予定している。

作業内容は、灯火装置の点灯、制動装置の作動その他の日常的に点検すべき事項について、目視等により点検を実施し「点検記録表－2」を提出する。作業は、土木課管理センター内を予定している。

3. 排水操作業務

1) 排水ポンプの操作

運転車両及び場所等詳細については、調査職員等の指示によるものとする。また、災害等の発生により必要が生じた場合には、土曜日、日曜日及び祝祭日、さらに夜間においても操作業務を実施するものとする。

受注者は、調査職員等からの出動指示があった場合は、体制を整えて車両保管場所まで速やかに到着し、車両及び機器の点検など運航前点検（道路運送車両法47条の2）を実施して出動すること。

排水ポンプの操作は、ポンプ車1台あたりに4名の操作員の配置を想定している。ポンプ車3台を同時に稼働することが可能な体制を整えること。なお、受注者の判断で要員を変更しても設計変更の対象としない。また、労働基準法等の関係法令を遵守し、受注者の判断で必要な交代要員を配置すること。

調査職員等から排水ポンプ車の操作に必要な照明器具やダンプトラックなどの車両や資機材の準備要請を行った場合は、受注者は準備に努めること。また、排水作業が長時間におよぶことが想定される場合は、燃料補給の燃料を排水現場に配置すること。追加の資機材及び作業等については、設計変更の対象とする。

2) 排水ポンプ車の回送

排水車両の現場への運搬、作業員の運搬及び浸水発生現場等での現場排水作業を伴わない排水ポンプ車の回送作業である。

3) 連絡車の運転

排水操作業務に従事する作業員の移動である。

4) 排水ポンプ車等の清掃

排水ポンプ車等の清掃は、2人体制を想定している。

作業内容は、作業に使用したポンプ及びホース等の点検と清掃を行い、再出動が可能な状態にすること。作業は、土木課管理センター内で昼間（８：００～１７：００）に実施すること。

５）出動待機

調査職員等による排水ポンプ車出動の指示に基づき、出動に必要な点検、準備等を行い待機するものである。

６）本業務における昼間とは８：００～１７：００、昼夜間とは１７：００～２２：００／５：００～８：００、夜間とは０：００～５：００／２２：００～２４：００を言う。

第４条 （報告書の提出）

１．本業務の履行にあたっては、業務計画書を速やかに調査職員等に提出すること。

なお、業務計画書の内容は下記の通りとする。又、現場責任者を選任した場合は業務履行体制表に記載するものとする。

- １）業務概要
- ２）業務実施要領
- ３）計画工程表
- ４）業務履行体制表
- ５）連絡体制表
- ６）安全管理
- ７）その他調査職員等が指示したもの

２．操作作業終了後の資料の提出は下記のとおりとする。

１）写真

- ・運行前点検状況
- ・車両保管場所から出発する状況
- ・排水現場に到着した状況
- ・現地で排水準備が出来た状況
- ・排水ポンプ投入状況
- ・排水作業状況
- ・操作業務完了後の清掃点検状況

２）建設機械運転日報（点検記録表－１）

３）運行前点検（日常点検）点検表（点検記録－２）

- 4) 建設機械点検操作記録表（点検記録表－3）
- 5) 排水ポンプ車運転点検記録表（1／1）（点検記録表－4）

- 3. 業務の履行中、不具合箇所及び修理箇所を発見した場合は、「点検記録表－5」に記載して速やかに調査職員に報告を行うこと。
- 4. 調査職員等が履行確認上必要と判断した資料については、受注者は速やかに提出するものとする。

第5条 （安全管理）

- 1. 受注者は、豪雨、出水、その他天災に対しては、平素から気象予報などについて十分な注意を払うものとする。
- 2. 受注者は、履行箇所及びその周辺にある既設構造物に対して支障を及ぼさないよう適切な処置を講ずるものとする。
- 3. 受注者は、浸水等により排水ポンプ車を配置する際、歩行者及び一般車両が進入出来ないよう車両運転者が見やすい位置に通行止め看板等を設置するものとする。

第6条 （事故報告）

- 1. 受注者は、事故が発生した場合には直ちに調査職員等に通報し指示に従うとともに、関係機関に届け出て必要な処置を講ずるものとする。

第7条 （車両のき損）

- 1. 受注者は、排水ポンプ車を亡失し又はき損したときは、直ちにその事実及び事由について詳細な報告書を調査職員に提出してその指示を受けなければならない。
- 2. 前項の亡失し又はき損が受注者の責任に帰すべき事由によるときは、調査職員等の指示にしたがい機械を速やかに修理しまたはその損害を賠償しなければならない。
- 3. 災害その他不可抗力によって機械に損害が生じたときは、その損害について両者協議して決定するものとする。
- 4. 受注者は、災害対策用機械により第三者に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。

第8条 （設計変更）

1. 排水ポンプ車操作業務については、実働時間により設計変更するものとする。実働時間のうち1時間に満たない時間を30分未満は切り捨て、30分以上は切り上げた時間を対象時間とする。

第9条 （その他）

1. 車両の法定点検及び車検は、本業務の対象外とする。
2. 点検業務において、修繕・整備の必要が生じた場合、対応を指示する場合がある。
3. 府・市等が主催する防災訓練への参加を指示する場合がある。参加した場合は、出動時間に応じて清算変更するものとする。
4. 受注者は労災保険に加入すること。
5. この仕様書に明記されていない事項、又は不明、疑義を生じたときは調査職員等と受注者で協議して定めるものとする。

建設機械運転日報

建設機械名

型式

点検者氏名

印

機械番号

令和 年 月 日 天候

運 転 状 況	作 業 内 容 及 び 作 業 目 的			運 転 時 間	走行距離(km)	作 業 量	
				時間 分	km		
				時間 分	km		
				時間 分	km		
				時間 分	km		
				時間 分	km	主燃料使用量	L
修 理 又 は 整 備 内 容 等					走 行 距 離 計		操 業 時 間
					始業時 km		始業時 時 分
					終業時 km		終業時 時 分
					差 引 km		計

運行前点検(日常点検)点検表

建設機械名 _____ 型式 _____ 機械番号 _____

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 天候 _____ 点検者氏名 _____ 印 _____

点 検 項 目		判 定		備 考
エを ンの ジぞ ンい ・て ルの ー点 ム検	ウインド・ウォッシャ液の量			
	ブレーキ液の量			
	バッテリー液の量			
	冷却水の量			
	エンジン・オイルの量			
車の 廻りを 点検 を回 つて の	タイヤの空気圧、亀裂、損傷 および異常な摩耗	亀裂・損傷		
		異常摩耗		
	タイヤの溝の深さ			
	ランプ類の点灯、点滅および レンズの損傷	点灯(点滅)		
		損傷		
運転 席に 座っ ての 点検	ブレーキ・ペダルの踏みしろ およびブレーキのきき	踏みしろ		
		きき		
	パーキング・ブレーキ・レバー の引きしろ			
	エンジンのかかり具合および 異音	かかり具合		
		異音		
	エンジンの低速および加速 状態	低速		
		加速		

建設機械点検操作記録表

建設機械名 _____ 型式 _____ 機械番号 _____

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 天候 _____ 点検者氏名 _____ 印 _____

走行(時間)メーターのよみ	発 _____ km(_____ H) 着 _____ km(_____ H)
エンジンオイル量	
冷却水量	
充電状況	

区分	不良箇所	処置
主 機 関		
伝 導 装 置		
操 行 装 置		
走 行 装 置		
電 気 装 置		
車 体 関 係		
作 業 装 置		
そ の 他		

地名		時間	走行時間 (min)	距離計よみ (km)	距離 (km)	備考
	発		分		km	
	着					
	発		分		km	
	着					
	発		分		km	
	着					

排水ポンプ車 運転点検記録表(1/1)

整理番号

責任者	立会者

建設機械番号
実施日 令和 年 月 日(天候)

作業者所属
氏名 印

発電機稼働時間	ポンプ運転時間					
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6

区分	点検項目	点検内容	判定基準	点検結果
ポンプ	排水状況	動作状態	排水運転していること	
	ポンプ外観	外観の目視確認	損傷、ひび割れがないこと	
	ケーブル外観	外観の目視確認	損傷、ひび割れがないこと	
	コネクタ	接触部の目視確認	損傷、取付部に緩みのないこと	
フロート	外観	外観の目視確認	損傷がないこと	
ホース	ホース	外観の目視確認	水の噴出、漏水の無いこと	
	金具	外観の目視確認	損傷、変形、部品の欠損がないこと	
		目視確認	水の噴出、漏水の無いこと	
制御盤操作	箱体	外観の目視確認	損傷、腐食等がないこと	
	表示部メータ類	目視確認	ランプ切、指示針の不動がないこと	
			各メータが規定値以上を示さないこと	
発電装置	発電装置	運転状況	異音、異常振動等なく運転できること	
		電圧確認(操作制御盤)	定格値であること	
		潤滑油量	潤滑油が規定値は行っていること	
照明	照明装置	目視確認	点灯すること	
車両関係	赤色回転灯	作動確認	異常がないこと	
	電子サイレン	作動確認	異常がないこと	
	スピーカー	作動確認	異常がないこと	
	車両位置検出装置	作動確認	異常がないこと	
搭載	外観	固定・施錠の確認	機器の固定、扉の施錠が確実にこなわれていること	

その他記入欄

排水ポンプ車 不具合記録表

建設機械名 _____ 型式 _____ 機械番号 _____

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 天候 _____ 点検者氏名 _____ 印 _____

区 分	不 良 箇 所	処 置
ポ ン プ		
フ ロ ー ト		
ホ ー ス		
制 御 盤		
発 電 装 置		
照 明		
車 両 関 係		
搭 載		

令和 7 年 度

土 の う ス テ ー シ ョ ン 管 理 業 務
仕 様 書

舞 鶴 市 土 木 課

第1条 （一般事項）

1. 本仕様書は土のうステーション管理業務(以下、「本業務」と言う)に適用する。
2. 主任技術者の選任等
主任技術者は、業務の履行に関して発注者の定めた調査職員等の指示等を受ける任にあたるとともに、受注者の業務の履行に関し業務従事者に対して業務の指示及び指導監督を行うものとする。
3. 現場責任者の選定等
受注者は、現場での履行時に発注者の定めた調査職員等の指示を速やかに実施するため、必要がある場合は主任技術者の代務者として現場責任者を定めることができる。ただし、事前に書面により調査職員等に通知するものとする。

第2条 （業務の概要）

本業務は、市民が自ら行う浸水対策を支援するため、舞鶴市が市内4箇所に設置する下記の土のうステーションにおいて、土のうを作製し設置するものである。また、定期的に点検作業を実施し土のうステーションの管理を行うものである。

履行場所：舞鶴市 市内一円（下記のとおり）

- ① 大浦地区：平ちびっこ広場敷地内（字平地内）
- ② 東・中地区：土木管理センター敷地内（字市場地内）
- ③ 西地区：西舞鶴駅東口職員駐車場敷地内（字伊佐津地内）
- ④ 加佐地区：加佐公民館敷地内（字志高地内）

履行期間：契約日の翌日から令和8年3月31日まで

（なお作業期間は、契約日の翌日から令和7年11月30日まで）

第3条 （業務の内容）

1. 土のう作製作業
作業時期や作製数量は、調査職員が指示するものとし、速やかに作業を実施すること。作業回数は、複数回になると想定している。
作製数量が把握できるよう写真を撮影し報告すること。作製数量は、下記のとおりとする。
土のう袋と中詰め砂（スクリーニング砂）は、発注者が材料支給するものとする。

＜土のう作製数量＞

① 大浦地区：300 袋 ②西地区：900 袋 ③加佐地区：300 袋

2. 点検作業

土のうステーション4箇所を点検して、土のうの残数、土のう袋の残数および砂の残量を報告すること。点検の頻度は、月2回（隔週）の計12回とする。1回あたり半日程度を想定している。

＜点検回数＞

期間：6月～11月 回数：6カ月×2回＝12回

第4条 （報告書の提出）

1. 作業終了後の資料の提出は下記のとおりとする。

1) 土のう作製作業

・作業報告書（作業状況写真・完了状況写真含む）

2) 点検作業

・点検報告書（状況写真含む）

第5条 （設計変更）

1. 土のう作製数量は、予定数量であるため実績数量で変更契約を行うものとする。

第6条 （その他）

1. 本仕様書に明記されていない事項については、調査職員との協議によるものとする。

以 上

土のうステーション開設場所 位置図

①大浦地区（平ちびっこ広場）



②東・中地区（土木管理センター）



③西地区（西舞鶴駅東口駐車場）



④加佐地区（加佐公民館）



令和 7 年 度

道 路 冠 水 安 全 対 策 業 務
仕 様 書

舞 鶴 市 土 木 課

第1条 (一般事項)

1. 本仕様書は道路冠水安全対策業務(以下、「本業務」と言う)に適用する。

2. 主任技術者の選任等

主任技術者は、業務の履行に関して発注者の定めた調査職員等の指示等を受ける任にあたりとともに、受注者の業務の履行に関し業務従事者に対して業務の指示及び指導監督を行うものとする。

3. 現場責任者の選定等

受注者は、現場での履行時に発注者の定めた調査職員等の指示を速やかに実施するため、必要がある場合は主任技術者の代務者として現場責任者を定めることができる。ただし、事前に書面により調査職員等に通知するものとする。

第2条 (業務の概要)

本業務は、高潮等により道路冠水発生する場合に車両や歩行者の安全な通行の確保及び近隣家屋への浸水被害を軽減するため、下記の路線において交通誘導員を設置するものである。

履行場所：舞鶴市 市内一円（下記のとおり）

① 竜宮通線（字市場地内）

② 宮古通線（字市場地内）

履行期間：契約日の翌日から令和8年3月31日まで

（なお作業期間は、契約日の翌日から令和7年11月30日まで）

第3条 (業務の内容)

1. 道路巡回

調査職員の指示により現場に交通誘導員を配置して、車両や歩行者の迂回や徐行を促し安全な通行確保する。

＜出動基準＞

出動時間 8：30～17：15 において、天文潮位 60 cm以上の潮位を観測する場合に交通誘導員を配置する。

＜出動指示＞

調査職員は、交通誘導員を配置する日の3日前の15時までに出動指示を行う。

＜現場配置＞

受注者は、調査職員から出動指示があった場合は、出動態勢を整え調査職員等の指示のもと交通誘導員を現場配置する。

当日の現場配置の時間は、別途調査職員が指示する。なお、現場に配置する交通誘導員の資格要件は求めない。

＜予定数量＞

- ① 竜宮通線 15 日 × 2 人 = 30 人日（平日）
7 日 × 2 人 = 14 人日（休日）
- ② 宮古通線 15 日 × 2 人 = 30 人日（平日）
7 日 × 2 人 = 14 人日（休日）

第4条 （報告書の提出）

1. 出動指示のあった場合は下記のとおり、日毎の報告書を提出すること。
 - 1) 現場配置を行った場合
 - ・現場配置状況の写真
 - ・作業員名簿（配置時間を記載）
 - 2) 現場配置の無かった場合
 - ・作業員名簿（待機時間を記載）

第5条 （設計変更）

1. 数量は、予定数量であるため実績数量で変更契約を行うものとする。
2. 出動指示を行ったものについては、現場配置の有無に関わらず変更契約の対象とする。

第6条 （その他）

1. 本仕様書に明記されていない事項については、調査職員との協議によるものとする。

以 上

浸水対策作業等包括業務委託（道路冠水安全対策業務）位置図

